

オンライン完結で申し込める資産形成型積立保険の提供

当社はスマートフォン等を利用してオンライン完結で申し込むことができる資産形成型の積立保険として、『AHARA (アハラ)』、『積立年金保険』、『みらいふくらむ』の3商品を提供しています。これらの特定保険契約^{※1}は、従来、銀行等の窓口経由で販売されることが一般的だったため、スマートフォンだけでも申し込みができることを多くのお客さまにお知らせするために、デジタルメディアを中心に商品広告を展開しています。

※1 変額年金保険や外貨建て保険など、保険業法で規定される市場リスクをお客さまが負う投資性の強い保険契約

【商品ラインアップ】



【広告イメージの例】



変額年金保険『AHARA (アハラ)』のサービスの拡充

『AHARA (アハラ)』は、2023年5月のサービス提供開始後も、ご利用データの分析やお客さまとの対面でのコミュニケーションを通して様々な視点からサービス改善に取り組み、ロボット・アドバイザーサービス^{※2}の提供、スマートフォンアプリ版の提供を行ってまいりました。

2026年4月23日より『AHARA (アハラ)』の保険料収納対応金融機関にSBI新生銀行が加わり、同行に預金口座をお持ちのお客さまからのお申し込みも受け付けできるようになりました。

※2 ロボット・アドバイザーは金融テクノロジーの1つで、一般的には企業等が開発したアルゴリズムによってお客さまの「リスク許容度 (資産状況や運用方針など)」に合わせた投資先等の資産形成アドバイスを受けられるシステムです。

AI技術の活用による業務の効率化・高度化

当社では、AI技術を活用したシステム開発業務の効率化に取り組んでいます。特にこれまで人が手作業で行っていたシステムテストを、AIで自動化する取り組みを進めています。

具体的には、クラウド上にAI専用の環境を構築し、システム設計書をもとにテストに必要な内容を自動生成する仕組み（下図）を開発しました。あわせて、AIが理解しやすいように指示を工夫することで、データの精度向上を図っています。

また、これらの検証成果を踏まえ、この仕組みを一部のシステムに試験的に導入し、実際の開発業務における有効性の確認を進めています。

今後も、これらの検証結果をもとに、主要システムへの展開を順次進めるなど、最新のAI技術を活用した業務の効率化および高度化を推進してまいります。



サイバーセキュリティへの取り組み

当社では、日々高度化・巧妙化するサイバー攻撃に備え、全社員を対象とした標的型攻撃メール訓練や、本社役員および関係部長を対象としたサイバーセキュリティ事案対策演習を継続的に実施しています。

また、一般社団法人金融ISAC^{※3}が主催する「金融ISAC共同演習（FIRE2025）」に参加し、既存の「サイバーセキュリティ事案対応細則」を見直すことで、事案発生時の対応力の強化に取り組んでいます。

※3 金融ISAC（Information Sharing and Analysis Center）は、日本の金融機関によるサイバーセキュリティに関する情報の共有および分析を行い、金融機関の安全性の向上を推進することで、利用者の安心・安全を継続的に確保することを目的として設立された組織です。

事業継続性の確保

当社では、事業継続性の確保を重視し、高度な安全対策を施したデータセンターに情報システムを設置しています。さらに異なる電力会社の供給エリアにある地理的に離れた場所にバックアップシステムおよびオフィスを設けることで、広域災害時にも事業を継続できる体制を整えています。

なお、当該データセンターは、公益財団法人金融情報システムセンター（FISC）^{※4}が定める「金融機関等コンピュータシステムの安全対策基準・解説書」に準拠したものです。

また、定期的に災害対策訓練を実施し、対応手順の確認および評価を行っています。必要に応じて手順の見直しを行うことで、事業継続性の向上に努めています。

※4 FISC（The Center for Financial Industry Information Systems）は、金融情報システムの安全性を確保するための自主基準の策定や普及啓蒙活動を行う機関です。